

「不祥事の撲滅に向けた取り組み」

我々の組合員が相当数、懲戒解雇を含む極めて重い社内処分を受けた。JR東海ユニオンは今回の事象を極めて重く受け止めるとともに、今後そうした事象を二度と再発させない取り組みを全組合員と一緒に創り上げていく所存である。

N 3 0

2010. 6. 23

JR東海労東二運分会

見出しの文書で始まる、東海旅客鉄道労働組合 中央執行委員会の考え方？ 決意？ が出されました。残念ながら、お客様や関係会社へのお詫びが全くありません。まして組合員への謝罪もありません。解雇を含む処分を受けた組合員の責任だから本部は関係ない。そして、首は当然だということです。それは、「不祥事」という表現に端的に出ています。会社の掲示か！ と怒りを感じます。

誰に対するものか、が分からないよう工夫されていますが、私たちは、ユニオン中央執行委員会が言いたいことを、こう理解します。組合員よ良く聞け。せつかく俺たちが会社と上手くやってきたのに、こいつらのお陰で台なしだ。処分された奴の面倒は見ないし、これからは、もっと厳しく啓蒙＝命令していくから覚悟しておけ、と怒りを最大限あらわにした中央執行委員会の開き直った決意、と。

JR東海は世の中からの信頼の上に成り立っている。労使関係もまた同様である、とも言っています。世の中はともかく労使関係を同列におくのは会社経営陣からこの時期に何ということをしてかした、水嶋委員長など全役員で責任をとれ、と怒られたのでしょう。その異常に驚き慌てふためいて、決められたルールを逸脱した重大な不祥事だ、と組合員を恫喝して乗り切ろうということです。

組合員と会社にとって「ルール」は、「規律」と「命令」です。「不祥事」とは「服従」と「忠誠心」がない、です。中央執行委員会が出した結論は、活動を通じて繰り返し組合員に訴える、と、魅力のあるJR東海を創っていく、です。緊急職場集会在ユニオントライに基づく「ルール」の徹底・黙らす場にならないよう祈ります。

「口封じ もの言わざるか 不祥事 で」 C D 頑 爺